

2021年度 園だより 3月



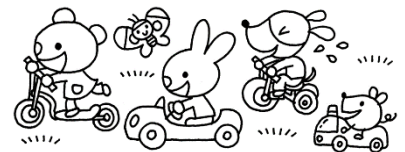
2022年 3月1日 **きたおおじ保育園**

<主任の思い出話>

以前勤めていた保育園で、行政からの指示により耐震工事が行われる事となりました。もちろん工事中でも保育は行なわれます。園舎を工事するので、園庭に小さなプレハブが建てられ、そこを仮園舎として保育を行いました。狭い空間に子ども達を詰め込んで、夏場は危険を感じながら保育を行いました。

この最悪な環境の中で、我々保育士がやるべき事は何なのか職員で話し合い、そして、いつものような保育が出来ないのであれば、いつも以上に子ども達を愛そう。と決めたのです。いつも以上に子ども達を抱きしめて、いつも以上に「大好きだよ！」と言葉に出そう。もしも快適な心地よさが足りないのなら、愛される心地よさで補おう。そして、「大好きだよ〜！」と子ども達を抱きしめる毎日が1年近く続いたのですが、振り返ってみると、私がこれまでの保育経験の中で、目の輝き、表情の穏やかさ、そばにいる安心感、そして、心地よさをいちばん感じる事が出来たのは、あの年の子ども達だったように思います。そういった経験から、私はこう考えるようになりました。

「どんな環境でも、そばにいる大人が愛してくれていたら、子どもはしっかり育つ。」
これは今のきたおおじ保育園が大切にしている事のひとつです。



<あったか〜いパワー>



かつて♪ありの〜ままの〜♪って歌がブームとなりました。それは「ありのまま」でいる事の難しさを意味しています。大人になっていくにつれ「ありのまま」でいる事が難しくなっていく。笑顔を見せてはいけない。怒りを抑えなくてはならない。涙を堪えなくてはならない。不安や寂しさまでも、本当の自分を押し殺さなければならない環境に子どもたちは向っていくのです。そして、そうならなくてはならない年齢がどんどん低くなっている事も事実です。そうなる前に、子ども達にとって必要なのは何でしょうか？情操教育や幼児教育といったものよりも、「自分は愛されている」といった経験です。自己肯定感なんていうと難しいですが、あったか〜いパワーが心に溜まって、そのパワーこそ生きる力なんだと思います。そのパワーは簡単には流れ出ていきません。ずーっとそこにあって、ポカポカさせてくれるパワーです。もしかしたら、子ども達にとって今しか溜める事が難しいパワーかもしれません。教育目線で接し、教えた事が出来ず腹を立てて怒るより、いま必要なのは、今しか溜めれないパワーを溜める事です。

<卒園児さんへ>



きたおおじ保育園に来てくれたこと、本当にとっても嬉しかったです。楽しい事い〜っぱいあったね。この保育園は、みんなの心がいつも自由で、自分の気持ちに嘘をつかなくてもいい。そんな世界でした。それは、どんな気持ちの時でも「だいすきだよ！」って、そのまんまを受け入れてくれた人達がいたから。いよいよこの保育園を卒園する時が来たね。ここでは「いいよ」って言われていたことが、これからは「ダメ！」って言われちゃうことも沢山あると思います。楽しい事と同じくらい嫌な事もあるかもしれません。もしも、パワーが足りなくなったら、きたおおじ保育園に帰っておいで。助けてあげられないかもしれないけれど、理解してあげられないかもしれないけれど、でも、「味方」であり続ける事は約束する。だから、安心して、いってらっしゃい！だいすきだよ〜！



主任保育士 糸井恵太



<3月の予定>

- 1日(火) 園だより発行
- 2日(水) 身体測定
- 24日(木) 卒園式練習
- 25日(金) 3月誕生会
- 26日(土) 卒園式
- 29日(火) 防災の日
- 31日(木) 2021年度終了

